

日本医療検査科学会第52回大会 終了ご挨拶

関係各位

謹啓 秋冷の候、各位におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る10月1日～31日にオンデマンド開催されました日本医療検査科学会第52回大会におきましては、滞りなく終了致しました。多大なご支援・ご協力を賜り深謝申し上げます。

本学会の学会名は、2020年1月1日から「一般社団法人 日本医療検査科学会(The Japan Association for Clinical Laboratory Science: JCLS)」に改称され、大会もその第一歩としての幕開けを予定しておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受けての開催となりました。

振り返れば、大会に合わせて開催される日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会展示会 JACLaS EXPO 2020 の通常開催を信じ、6月に「合同新型コロナウイルス感染症対策委員会」を設置し、準備してまいりました。しかし、想定を上回る感染拡大に伴う自治体や関係各施設からの移動の自粛や感染リスク等の状況に配慮し、8月上旬に苦渋の決断をし、WEB開催に至った次第です。この状況下ではありましたが、一般演題は、184題を登録いただきました。オリンピック・パラリンピック関連の企画、国際シンポジウムは断念しましたが、そのほかのプログラムはおおむね実施できました。皆様には重ねて感謝申し上げます。

本大会は、総合テーマとして「これからの臨床検査のあり方」を掲げました。特別講演は、自治医科大学学長の永井良三先生に「デジタル時代の医療検査科学」をご講演いただきました。記念講演として日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会長(参議院議員)に「臨床検査を新生させ、未来を拓くーポスト新型コロナウイルス時代を考えるー」、また、国際医療福祉大学大学院の大澤進先生に「これからの臨床検査技師のあり方」をご講演いただきました。

教育講演、シンポジウムは「これからの臨床検査のあり方」をテーマに、分子病理検査、臨床検査技師教育、臨床化学検査、生理学的検査、血液学検査をご講演いただきました。各種技術セミナー、ランチョンセミナー、モーニングセミナー、RCRP「検査値を読むトレーニング：考える臨床検査：徹底討論－検査の奥深さを知る」も充実した内容で貴重な知見でした。

参加者には、オンデマンド配信の利点を生かし、ご都合の良い時間に専門外の領域のテーマなども含めて幅広く学ぶ機会にさせていただけたものと考えております。

医療や臨床検査の技術革新は目覚ましく、ゲノム医療、画像診断・解析技術やAI(人工知能)の活用が進んでいます。今後も新しい技術を活用し、より幅広い医療や臨床検査のニーズに対応していくことが求められています。このような現況において臨床検査関係者の連携が進み、検査業界全体の発展がますます進むことを期待しています。

次の第53回大会は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の柳原克紀大会長のもと横浜で開催されます。本学会のさらなる発展と皆さまの御多幸を祈念し、お礼のご挨拶とさせていただきます。

謹白



令和2年11月吉日
日本医療検査科学会第52回大会
大会長 横田 浩充